

令和5年度鳥取県人権文化センター啓発動画の内容について

1 啓発動画①

- ア タイトル 大人のための10の心得 ～子どもの思いを引き出し受けとめるために～
- イ 時間 5分程度（オープニング及びエンディング動画含む）
- ウ イメージ 親しみやすく洗練されたもの
- エ 目標 就学前（保育所・幼稚園等含む）及び小学生の保護者及び教員等が、この動画をきっかけに子どもの意見表明権に関心を持つ。また、個人的に視聴した後は周囲にも紹介する。
- オ 掲載内容 基本的な流れや内容は、以下の表の通りとする。  
表内の「テロップ」欄に○があるところは、音声（ナレーション、会話調等）に加えて必ずテロップを付加すること。○がないところは、音声（ナレーション、会話調等）を基本とし、必要に応じてテロップを付加すること。また、文意が変わらない程度の表現の変更は可とする。

	区 分	テロップ <sup>o</sup>	内 容（テロップ、音声原稿等）
1	オープニング		※オープニング動画を挿入
2	動画タイトル	○	大人のための10の心得 ～子どもの思いを引き出し受けとめるために～
3	章タイトル	○	<p>「子ども」とはどんな存在でしょう？</p> <p>社会経験が少なく、生きていくための知恵や自立するための力が十分に育っていない子どもは、「保護の対象」として見られることが多い存在です。しかしそれと同時に、子どもは一人の人間として意思と人格を備えた「権利の主体者」でもあります。</p> <p>誰もが持っている大切な人権の一つに、自分の思いや意見を表す権利があります。子どもがこの権利を行使するためには、大人は子どもの思いに丁寧に耳を傾け、その意見を尊重しなければなりません。</p> <p>日々、子どもたちと向き合い、時に、戸惑い、悩み、葛藤を抱えるあなたに、「子どもの思いを引き出し受けとめる大人のための10の心得」をお届けします。</p> <p>この10の心得を見て、子どもと向き合うときのあなたの様子を振り返ってみてください。</p>
4	章タイトル	○	子どもの思いを引き出し受けとめる大人のための10の心得
		○	<p>①子どもと私は別人格。好みも考えも決定も、私と違って当然。</p> <p>②子ども抜きに子どものことを決めない。子どもに関する決定は、子どもの意見を聴いてから。</p> <p>③子どもに大人の意見を押しつけない。</p> <p>④子どもが十分に考えられるよう、適切な情報の提供を。</p> <p>⑤子どもの話をさえぎらず、最後までじっくり聴く。</p>

			⑥子どもの意見にしっかり応答、話し合いを丁寧に。 ⑦子どもが意見を言いやすくなるよう感謝の言葉を忘れずに。 ⑧子どもが問われ、考え、自ら決めた経験は、きっと子どもの成長につながる。 ⑨子どもの人生は子どものももの。私は子どもにとって最善のサポーターになろう。 ⑩最善のサポーターになれるよう、いつでも周囲の大人たちや社会のサポートを受けられる。
5	章タイトル	○	こども基本法
			令和5年4月、こども基本法が施行されました。
		○	子どもの権利を包括的に保障する日本で初めての法律です。基本理念を示した第三条の第三号と第四号には、全ての子どもに意見を表明する機会を保障し、子どもの最善の利益が優先して考慮されるよう記されています。
6	まとめ		子どもだってしっかり自分の考えを持っています。 「10の心得」をもとに、子どもに対する接し方をいま一度、考えてみましょう！
7	エンディング		※エンディング動画を挿入

※破線部分は企画提案書に絵コンテを添付する部分。

詳細は、別紙2「令和5年度鳥取県人権文化センター啓発動画制作業務企画提案書等作成要領」を参照のこと。

## 2 啓発動画②

- ア タイトル バイアス、ミナオス？
- イ 時間 10分程度（オープニング及びエンディング動画含む）
- ウ イメージ 親しみやすく洗練されたもの
- エ 目標 成人全般が、バイアスを手がかりに自分の言動や周囲の状況をふりかえり、問題があれば改めようとする。
- オ 掲載内容 基本的な流れや内容は、以下の表の通りとする。  
表内の「テロップ」欄に○があるところについては、音声（ナレーション、会話調等）に加えて必ずテロップを付加すること。○がないところは、音声（ナレーション、会話調等）を基本とし、必要に応じてテロップを付加すること。また、文意が変わらない程度の表現の変更は可とする。

	区分	テロップ	内容（文字、音声原稿等）
1	オープニング		※オープニング動画を挿入
2	動画タイトル	○	バイアス、ミナオス？ 私たちは日頃、「あの人はこんな人に違いない」「普通はこうすべきだ」など、合理的な理由もなく人や物事に対して思い込み、決

		めつけることがあります。そうした、人の思考や判断の歪みや偏り、あるいはそれをもたらす心の仕組みを、総称して「バイアス」と呼びます。本人は無意識であることから、「アンコンシャス・バイアス」とも言われます。例えば、性別や年齢、居住地等の属性から、その人の特性や能力を判断してしまうこともバイアスの一つです。他にもどのようなバイアスがあるか、事例をもとに紹介します。
3	章タイトル マンガ（静止画、アニメーション等）	○ あなたのことは「全部好き」か「全部嫌い」 ＜状況＞ ・著名な講師による一般対象の講演会。講師の経歴から、参加者は講師に「後光」が差して見える。講師の話は、難しい言葉や言い回しが多く、早口でギャグもしらける。しかし、多くの参加者は良い方に解釈する。 ・一方、講師のことをよく知らないまま参加したふらっちょーには、講師に後光が差して見えないので、講師の話に冷静にツッコむ。 ＜セリフ＞ ・講師「弁証法的には…」 「エビデンスが必要で…」 「健康増進策の隘路を克服すると…」 「まあ、栄養は体にえーよーってね（ニヤリ）」 ・参加者「講師はこの研究の分野じゃ世界の第一人者だって」 「さすが、世界で活躍される人は語彙も豊富で博識」 「流暢に話される」 「偉い先生なのにユーモアもある」 ・ふらっちょー「難しい言葉でわからない」 「流暢？いや、早口で聞き取れない」 「ギャグもしらける」
	ハロー効果	○ ハロー効果 ハロー効果とは、人や物事を評価するときに、その外見や肩書き・学歴等の「分かりやすい目立つ特徴」に引きずられて、それ以外の部分を実際より良く、又は悪く評価してしまうことです。 マンガでは、参加者は、講師の「立派な肩書き」に引きずられて、他の面も実態とかけ離れた高評価をし、事実を見誤っているようです。
	注意！	○ 注意！ 相手に不利益をもたらすことも 相手の「ネガティブな面」に引きずられて、他の面も実際以上に悪く評価してしまうと、相手に直接的な不利益を与えることがあります。例えば…。

	マンガ（静止画、アニメーション等）		<p>&lt;状況&gt; 字がヘタな学生Aを「不真面目な学生」と思い込む担当教員。ある日、Aと字が綺麗なBが、そっくりな内容のレポートを提出する。教員はAがBのレポートを写したと思い、Aの評価を下げる。</p>
	アドバイス	○	<p>アドバイス</p> <p>次の方法を参考に、相手の目立つ特徴に引っ張られないようにしましょう。</p>
		○	<p>①「～だからといって、～とは限らない」と言ってみる</p> <p>&lt;例&gt; 「Aさんの字が下手だからといって、不真面目な人とは限らない」</p>
		○	<p>②正しく評価できるための仕組みをつくる</p> <p>&lt;例&gt; 話し合いでは、「誰が言ったか」ではなく「何を言ったか」で判断できるよう、匿名で意見を出し合い、意見を吟味し合うまで名前は出さない。</p>
4	章タイトル	○	<p>「やっぱりね」「ほらね」…多すぎない？</p>
	マンガ（静止画、アニメーション等）		<p>&lt;状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞紙を広げ、「75歳のドライバーが人身事故」「80歳ドライバーが衝突死」という、高齢ドライバーが人身事故を起こした記事を見るA。</li> <li>・一方、広げた新聞紙の裏には、若年ドライバーの運転事故の記事が数点ある。それに気づかないA。</li> <li>・Aの様子を見たふらっちょーが一言。</li> </ul> <p>&lt;セリフ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A「ほら！やっぱり高齢者の運転は危険なんだよ！」 「運転しないように家族が強く説得しなきゃ」 「いや、いっそ法律で高齢者の免許返納を強制にした方がいいな」</li> <li>・ふらっちょー「裏面に気づいてる？」</li> </ul>
	確証バイアス	○	<p>確証バイアス</p> <p>確証バイアスとは、その人がすでに持っている考えや信念に合うような情報を無意識に集め、そうでない情報は、軽視・無視してしまうことです。</p> <p>自分の考えや信念と実際に起きている事柄が矛盾するとき、人は不快感を覚えます。これを認知的不協和といいます。この不快な状態を避けるために、確証バイアスが生じることがあります。</p>
	注意！	○	<p>注意！</p> <p>元々ある「思い込み」を強める</p> <p>確証バイアスは、自分の中に元々ある、特定の物事や人への思い</p>

			込みを確信に変えるバイアスです。その確信が偏見や差別に向かうこともあります。例えば…。
	マンガ（静止画、アニメーション等）		＜状況＞ 組織の人事評価で、ある部下を「仕事ができないヤツ」と思い込むと、その部下の能力の低さを裏付ける情報ばかりを集め、「やっぱりできないヤツ」と確信し、低い評価をつける。
	アドバイス	○	アドバイス 「間違いをする」「考えを変える」のもOK！
		○	①確証バイアスに陥る原因の一つ。「間違いを認めたくない」
			間違いは誰にでもあります。だからこそ、間違いを直し、今までの考え方を变えても良いのです。これを心に留め、自分とは異なる意見に触れてみましょう。
		○	②「第三者（外部者）」の意見を取り入れる。
			重要なことを決定する時は、利害関係なく信頼できる「第三者、又は、あえて反対意見を述べる人」の意見を参考にすることも一つの方法です。ただし、その「第三者」がいつも同じ人だと、意見に偏りが生じるので注意しましょう。
5	章タイトル	○	バイアスはなくせる？
			紹介したバイアスや心理現象は、「人間の欲求」と深く結びついており、完全になくすことはできません。例えば…。
		○	○楽がしたい ・ハロー効果で、他者を理解するのに深く考えずに済む
			○平穏・無事に暮らしたい ・ハロー効果で、「要注意人物」を幅広く察知
			○自信や自己肯定感を保ちたい ・確証バイアスで自分の正しさを繰り返し確認
			しかし、バイアスに基づいた言動で、知らない内に誰かを傷つけ、追いつめたり、問題を引き起こしたりしないよう、バイアスと上手に付き合うことはできます。
	バイアスを ミナオス秘訣	○	バイアスをミナオス秘訣
		○	<input checked="" type="checkbox"/> 様々なバイアスや心理現象について学ぶ <input checked="" type="checkbox"/> バイアス等を完全になくすことは不可能だが、コントロールすることはできると理解する <input checked="" type="checkbox"/> 自分の言動がバイアス等の影響を受けていないか、日々自己チェックする <input checked="" type="checkbox"/> 他者と指摘し合う「それ、バイアスの可能性はない？」 ・指摘され、自分の認識が誤りだと気づけば素直に認めて正す <input checked="" type="checkbox"/> 組織の運営の仕方に、バイアス等がないか点検する ＜バイアスの探しどころ＞ ・メンバーの性別や年齢等に偏りがあるチームや部署

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・理由は明確でないが「当たり前化」している物事の進め方</li> <li>・昔から決まっている役割分担</li> <li>・範囲が限定された情報共有</li> <li>・いつも同じ人に聞いている「外部の意見」</li> </ul>
6	章タイトル	○	<p>バイアスの視点から「当たり前」を見直してみよう</p> <p>バイアスは、その人自身が培ってきた経験や知識、価値観をベースに形成されるものです。そのため、私たちが日々接する情報や周囲の人、所属する組織、社会のあり様も、バイアスの形成に無関係とは言えません。</p> <p>個人のバイアスに注目するだけでなく、その人を取り巻く周囲や集団・組織・社会の中に根付く「当たり前」となっている考え方や仕組みの中に、バイアスを発生・助長させるような要因がないか、気づいていくことが大切です。バイアスの視点から、個人や社会の中にある「当たり前」を見直してみましょう。</p>
7	エンディング		※エンディング動画を挿入

※破線部分は企画提案書に絵コンテを添付する部分。

詳細は、別紙2「令和5年度鳥取県人権文化センター啓発動画制作業務企画提案書等作成要領」を参照のこと。